限界集落の離島の現状調査（上島町高井神島を例として）

池内義*・五井和貴

The Present Research of the Marginal Village Islands, in the Seto Inland Sea
"In case of the Takaikami-Island, Kamijima-cho."

Ryo IKEUCHI and Kazuki GOI

キーワード： 限界集落の離島、訪問調査・アンケート調査、支援モデル、高井神島

1. 卒業研究論文の概要

瀬戸内海には海岸線が0.1km以上の島が727島あり、平成24年4月現在、95島が離島振興法の対象離島として挙げられている。このうち人口100人未満の島が56島あり、いずれも高齢化率50%を超える限界集落の離島となっている。

本研究では、離島での生活に欠かすことができない船舗の支援モデル構築のために、限界集落の離島の現状調査を、上島町高井神島を例として行い、その結果を卒業研究論文としてまとめたものである。

2. 現状調査の方法

上島町高井神島は、瀬戸内海のほぼ中央にある弓削島の南10km程のところに位置し、人口35人（H25.4現在）、高齢化率66%の離島で、町営汽船が1日4便発着している。島の産業は、かつては漁業が盛んであったが、現在、漁業従事者は数名で、ほとんどが年金受給のみである。子供は少ない、商店や行政機関もない。週1回訪問診療、月1回出張金融サービスが行われている。電気、上下水道、インターネット、CATVなどは整備されており、自治会組織もある。

今回行った調査方法は以下のとおりである。
1）アンケート調査、聞き取り調査
島民に対して、国土交通省国土計画局総合計画課作成の「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした日常生活に関するアンケート調査」を参考としてアンケート及び聞き取り調査を実施した。
2）上島町役場への訪問調査
管轄区域内の離島に対する行政サービス、行政支援などの内容を中心に訪問調査を実施した。
3）文献調査、インターネット調査
「離島振興法」や県の離島振興計画、「魚島村誌」など、離島に関する文献調査を文献やインターネットなどで実施した。

3. 調査結果

アンケート回収率は31.4%（有効回答数11名）と低かった。原因として、長期不在（入院や島外暮らし等）が多く、「恥ずかしい」、「忙しい」などで協力を得られなかったことなどが挙げられる。

聞き取り調査では、島の生活に多くの人は満足しているが、高齢者が多いので、医療面での不安が持続的に持っている人が多いということがわかった。

行政の支援としては、上島町で行っている具体的な主な対応としては以下のことが挙げられる。
1）通船運賃の島民半額割引とパリアフリーハイ
2）ヘリポートの整備、救急艇の配備
3）毎週1回の医師、看護師の出張診療
4）全高齢者住宅への緊急情報システムの設置
5）毎月1回の役場職員（見守り隊）の全戸訪問

また、現在行われている主なボランティア支援としては以下のことが挙げられる。
1）役場主導のボランティア活動（3世代交流、清掃活動など）
2）市町村振興事業助成のイベント活動（高井神島の祭イベントなど）

図1にアンケート結果の一例を示す。

4. 通船支援モデルの検討

全国で唯一の湖水域有人離島である滋賀県・琵琶湖の冲島通船（20トン未満、年金併用型給与、戸別負担金制度、乗員2名）は自治会運営で黒字運航している。当該モデルを高井神島に寄港している町営汽船に応用できないか検討してみた。現在、町営汽船（52トン、乗員3名、公務員）は赤字運航のため税金で補填している。10分程度の近距離湖水域と1時間程度を要する灘を挟む航路では、同様の生活航路といえ、安全確保上大きな差があり、沖島通船モデルをそのまま適用することは難しいことがわかった。赤字削減策を含め研究・工夫を重ね、今後の検討課題とした。

*弓削商船高等専門学校商船学科